

|           |                     |    |
|-----------|---------------------|----|
| レジメンcode: | C53-11              | 備考 |
| 適応がん種:    | 子宮頸癌                |    |
| レジメン名:    | Pembrolizumab+TC+Bv |    |
| 間隔:       | 3週間                 |    |

| 略名    | 抗がん剤(採用薬品名)     | 投与量 | 単位                | 投与法     | 投与日 |
|-------|-----------------|-----|-------------------|---------|-----|
|       | キイトルーダ          | 200 | mg/body           | 点滴(30分) | d1  |
| PTX   | パクリタキセル(タキソール)  | 175 | mg/m <sup>2</sup> | 点滴(3時間) | d1  |
| CBDCA | カルボプラチナ(パラプラチナ) | 5   | AUC               | 点滴(1時間) | d1  |
| Bv    | アバスチン           | 15  | mg/kg             | 点滴[*1]  | d1  |

#### day1【ケモセーフ使用】

- 1) 生食 50ml 1 本  
ルート確保
- 2) キイトルーダ 200 mg/body  
生食 50ml 1  
主管① 点滴 30分 インラインフィルター必須
- 3) 生食 50ml 1 本  
主管② 点滴 15分
- 4) ファモチジン 20mg 1 A  
デキサート 6.6mg 3 V  
ポララミン 5mg 1 A  
生食 50ml 1 本  
主管③ 点滴 15 分
- 5) アロカリス 235mg 1 V  
パロノセトロン 0.75mg 1 V  
生食 50ml 1 本  
主管④ 点滴 30 分
- 6) パクリタキセル(タキソール) 175 mg/m<sup>2</sup> 【ケモセーフ使用】  
ブドウ糖液5% 500ml 1 袋  
主管⑤ 点滴 3時間 インラインフィルター必須
- 7) カルボプラチナ(パラプラチナ) 5 AUC 【ケモセーフ使用】  
生食 250ml 1 袋  
主管⑥ 点滴 1時間
- 8) アバスチン 15 mg/kg  
生食 100ml 1 本  
主管⑦ 点滴 初回90分  
2回目60分  
3回目以降30分[\*1]

次ページあり

|       |      |       |          |
|-------|------|-------|----------|
| 9) 生食 | 50ml | 1 本   |          |
| フラッシュ |      |       |          |
|       |      | 〈所要時間 | 約6時間30分〉 |
|       |      | 〈2回目  | 約7時間〉    |
|       |      | 〈初回   | 約7時間30分〉 |

### 【文献】

国際共同第III相試験【KEYNOTE-826試験 N Engl J Med 2021;385:1856–67(PMID:34534429)】

\*適応:進行又は再発の子宮頸癌

(臨床試験)

\*対象:根治治療の適応がなく、化学療法歴のない(化学放射線療法としての投与歴は除く)進行又は再発の子宮頸癌患者

\*投与回数:

・TCは最大6サイクル(しかし、臨床的ベネフィットが継続し、投与が許容可能な患者は6サイクルを超える投与が許容された。)

・キトルーダは最大35サイクルまで投与された。

・アバスチンは、疾患進行又は許容できない有害事象の発現まで投与可能とされた。

・TC療法終了後はC53-14、C53-15:Pembrolizumab±Bv又はC53-16:Bv(Pembrolizumab投与継続不可の場合)へ移行する。

\*PD-L1発現の有無は問わない。

### 【キトルーダ】

\*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。

◎検査セット登録あり:場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目~)

\*インラインフィルター(0.2~5 μm)を使用する。

\*調製時、又は希釈後に振盪により微粒子が生成される可能性があるため、バイアルは振盪せず、激しく攪拌しない。

\*生食又は5%ブドウ糖に溶解する。同一点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しない。

\*希釈後、25°C以下で6時間以内または2~8°Cで合計96時間以内に使用する。

\*有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連など)対処アルゴリズムを参照する。

\*臨床試験での検査スケジュール、投与延期または休薬基準を参照する。